

## 令和5年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 地域に密着した「普通科」校ならではの特色を生かし、「知」「徳」「体」の育成を図り、生徒が「藤高（ふじたか）」生のプライドを持ち行動する学校
- 1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と、生徒一人ひとりの希望を叶える進路を実現する
  - 2 学校行事や部活動等を通して、生徒の主体性、創造性を育成するとともに公共心を養う
  - 3 「地域連携」を核に、地域に根ざした「地域とともにある学校」を進めるとともに、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携も進める
  - 4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送り、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる

## 2 中期的目標

- 1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と希望を叶える進路の実現
  - (1) 希望の進路の実現に向け教員の指導力を向上するとともに、生徒が主体的に授業に取り組む教育活動を推進する
    - ア 「普通科」における教科横断の授業研究を進めるとともに観点別学習の視点からの授業改善を行い、生徒の学力の向上を図る
    - イ 授業におけるICTの効果的な活用を進め、視覚化、情報活用による教育効果をさらに高めオンライン学習を併用する

※ 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（R2:86.3%、R3:86.1%、R4:83.4%）を令和7年度において90%にすることをめざす。
  - (2) 3年間を通じて進路指導計画・課外講習の充実を図り、希望の進路を実現させる
    - ア 1年次から進路に合わせた授業や進学講習を実施し、早期の目標設定につなげる工夫をする
    - イ 進路決定まで、学年進行に合わせて多様な希望に応える個別の指導を幅広く展開する
    - ウ 大学等との連携や早期からの講習、自習室活用の拡充、粘り強い指導により難関大学への進学実績を向上させる

※ 国公立・難関私立大学の合格者数（R2:18人、R3:50人、R4:28人）を令和7年度には60人以上に、それに準じる有名私立大学合格者数（R2:57人、R3:72人、R4:94人）を令和7年度には120人以上にする
- 2 学校行事や部活動を通して生徒の主体性、創造性を育成するとともに公共心を養う
  - (1) 「学校行事」、「生徒会活動」、「部活動」を通して生徒が主体的に取り組む態度、自ら企画・運営する力を育む
    - ア 体育的行事において生徒会部を中心に組織の企画・運営の力を育むとともに、リーダーとなる生徒を養成する
    - イ 文化的行事において生徒の「企画する力」、「協働する態度」、「責任感」を育む
    - ウ 「部活動」の活性化によって学校生活をより充実したものにし、その活動を通して公共心を育む
    - エ 「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」を完全実施するとともに、年間を通して生徒・教職員の負担軽減を図る

※ 生徒向け学校教育自己診断における「学校行事」満足度（R2:91.3%、R3:90.9%、R4:91.2%）、「部活動」満足度（R2:85.8%、R3:91.2%、R4:87.4%）を令和7年度までにすべての項目が92%を超えることをめざす
- 3 「地域連携」を核に、地域に根ざした「地域とともにある学校」を進めるとともに、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携を推進する
  - (1) 支援学校との交流を促進し、インクルーシブ教育システムについて理解を深めるとともに「人権教育」につなげていく
    - ア 藤井寺支援学校との交流活動を充実させ、生徒及び教職員がインクルーシブ教育システムについて理解し活動に生かす
  - (2) 「地域連携」を核に生徒が主体的に取り組む交流活動を拡充することによって、「地域とともにある、進学したい学校No.1」をより確かなものとする
    - ア 地域活動（新春セミナー・藤彩展・市民講座・クリーンアップキャンペーン・地域の催しへの参加、地元小学校や他の教育機関との連携活動）の拡充を図り、地域と密着した、「チーム藤高（ふじたか）」を発展させる
    - イ PTA、同窓会の協力の下海外研修の継続・充実を図り、藤井寺市海外交流委員会と連携した短期留学生の受け入れ交流も充実させる

※ 生徒向け学校教育自己診断における「特色ある取り組み」に関する肯定度（R2:80.3%、R3:83.5%、R4:81.0%）を令和7年度において85%にし、「交流活動」に関する肯定度（R2:84.3%、R3:82.3%、R4:81.7%）を令和7年度において85%をめざす
  - (3) 「藤高（ふじたか）」の良さを知り、実感できる広報活動を展開する
    - ア 学校ホームページ、藤高メルマガのさらなる充実を図り、情報発信を強化する
    - イ 「体験入学」、「学校説明会」について生徒が主体となった運営を継続し、「藤高（ふじたか）」の良さをわかりやすく伝えていく

※ 保護者向け学校教育自己診断における「教育情報伝達」に関する満足度（R2:74.7%、R3:87.0%、R4:89.7%）を令和7年度において95%、「HP・メール発信」に関する満足度（R2:87.9%、R3:89.2%、R4:84.8%）を令和7年度において95%をめざす
- 4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送るとともに、生徒・教職員の健康管理を推進する体制の充実
  - (1) 生徒の規範意識の向上と保護者や関係機関との連携による教育相談体制の充実を図る
    - ア 「互いに違いを認め合い、ともに学びともに生きる」ことを育むために一人ひとりの生徒支援の充実を図る
    - イ 多数の生徒が利用している自転車のマナー向上と交通安全指導の徹底を図る

※ 生徒向け学校教育自己診断における「教育相談体制」に関する満足度（R2:70.2%、R3:74.1%、R4:69.0%）、保護者向け学校教育自己診断における「教育相談体制」に関する満足度（R2:74.1%、R3:76.2%、R4:79.7%）を令和7年度においてどちらも80%にする
  - (2) 「入学してよかったと言える学校」を将来に渡って継続していくために、本校の将来展望を検討する
    - ア 「運営委員会」「総合学習推進委員会」「オンライン学習委員会」を中心に将来に向けた特色ある取組を具体的に検討していく
    - イ 情報のデジタル化にともなう個人情報漏洩の危険性に対して、情報保護のための具体的な取組を検討する

※ 生徒向け学校教育自己診断における「学校に行くのは楽しい」の肯定度（R2:84.3%、R3:83.3%、R4:78.8%）を令和7年度において90%をめざし、「学校において個人情報を守られている」の肯定度（R2:91.6%、R3:88.6%、R4:89.7%）を令和7年度において93%をめざす
  - (3) 大規模災害の発生に対応できる防災体制の強化と防災教育の充実を図る

- ア 大規模災害の発生に対応できる防災体制を強化する  
 (4) 学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化することによって生徒・教職員の健康管理体制を充実させる

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年 12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒向け診断の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的評価が前年度比5ポイント以上増加した項目は『学校に行くのは楽しい』『先生は生徒の意見をよく聞いてくれる』『担任以外に相談できる先生がいる』『いじめについて真剣に対応してくれる』『特色ある取り組み』『交流活動』の6項目であった。</li> <li>肯定的評価が前年度比で減少した項目は『工夫された授業』0.1ポイント減、『集会でのわかりやすい話』1.3ポイント減の2項目のみであった。</li> <li>生徒は概ね本校の教育活動に対し肯定的な評価をしていると判断できる。</li> </ul> <p>保護者向け診断の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的評価が前年度比3ポイント以上増加した項目は『クラスに友達がいる』『行事を楽しんでいる』『特色ある取り組み』『交流活動』の4項目であった。</li> <li>肯定的評価が前年度比で2ポイント以上減少した項目は『相談体制』2ポイント減、『生徒会活動』2.8ポイント減、『教育情報の提供』2.6ポイント減、『PTA活動への参加』2.3ポイント減の4項目であった。</li> <li>学校内の教育活動や生徒会、生徒の様子、PTA活動について一層の情報提供をするとともに、現在実施している個別の懇談会や学年別の進路講演会の機会を利用して、広く教育に関わる情報も提供していく必要がある。</li> </ul>	<p>第1回 6月 29日(水) 14時開会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営計画の学校目標について、評価の数値が特に高くなってきた項目は今後達成が難しくなっていくのではないかと。</li> <li>総体的な取り組みに加えて重点化した取り組みを設けることによって、先生方の仕事量を減らすことができるのではないかと。</li> <li>校門が自動ロックシステムになっていないので不審者が入り放題にならないか心配である。多くの中学校が導入しているような自動ロックシステムの導入を検討した方がよいと思う。</li> <li>学校経営計画の中期目標は常に3年後のことを書いているが、3年後に中期目標についての評価や振り返りを行う必要がある。</li> <li>小学生が登校しているときに、道を譲ったり挨拶をしたりしている姿が印象的で好ましく感じられる。</li> </ul> <p>第2回 12月 15日(金) 14時開会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケート結果の分析から、特段に数値が低いのは予習や復習の項目であることがわかる。これは学習の基本であり、実施させる具体的な方策を検討してほしい。</li> <li>遅刻ギリギリで自転車登校をしている生徒の速度が速く、事故につながる心配である。また、雨傘の禁止については成果が出ているが、日傘をさして自転車に乗っている生徒を見て驚いた。どのように指導するか検討しなければならない。</li> <li>自然とあいさつができる生徒を見て、「自ら判断し、行動できるようになる」仕組みが藤高らしさを生んでいる。</li> <li>今回の学校運営協議会の場で協議会委員に対して行った「生徒による学校紹介」は学校の様子をととてもよく伝えており、良かったと思う。今後、このプレゼンを見て、自分もやりたいという生徒が入学を希望してくるかもしれない。</li> </ul> <p>第3回 3月 25日(月) 14時開会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケート、学校教育自己診断の結果から、藤井寺高校の教育実践が良い成果につながっていると読み取れる。ここ1、2年で生徒がずいぶんよくなったと感じている。</li> <li>学校評価における数値がかなり高いものになっているのでこれ以上の伸びは難しいのではないかと。新たな項目を設定することも検討してほしい。</li> <li>卒業式における呼名や卒業の歌の時、もっと大きな声を出せばさらに良い式になると思う。</li> <li>小学校との交流はこれからも継続してほしい。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と、希望を叶える進路の実現	(1) 進路希望の実現に向けた教員の指導力の向上と生徒が主体的に授業に取り組むための工夫 ア 「主体的に学ぶ力」の向上に向けた観点別評価視点からの授業改善促進 イ ICT活用とオンライン授業による効果的教科指導の構築	(1) ア 「主体的に学ぶ力」の育成および事前学習となる「予習・復習」のために、学習支援クラウドサービスとグループウェア活用の拡大と充実を図るとともに、観点別学習評価の視点から授業改善に取り組み、教務部・オンライン委員会による効果検証を実施する。また、授業アンケート結果の活用によって更なる授業改善をすすめる イ プロジェクタやPC・タブレットを効果的に活用し、オンラインを併用した授業を展開することで、学力向上につなげる	(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断における授業満足度[83.9%]を84.5%以上にする ・授業アンケートの肯定的評価(2回の平均)[89.3%]を90%以上にする ・教員向け学校教育自己診断における「授業改善」[97.0%]を100%にする イ 生徒向け学校教育自己診断における「教材やコンピュータ、プロジェクタなどで工夫された授業がある」[91.7%]において92%以上にする	(1) ア ・授業満足度88.0%(◎) *授業アンケートの結果とリンクしている ・授業アンケートの肯定的評価90.0%(○) *評価結果は過去最高の値であった ・「授業改善」100%(◎) *教科単位での改善にも努めている イ 「教材やコンピュータ、プロジェクタなどで工夫された授業がある」92.8%(○) *1人1台端末の活用について学校全体で研修を重ねている
	(2) 3年間を見通した進路指導計画・課外講習の充実 ア 1年次からの少人数授業・進学講習の充実 イ 多様な進路への対応 ウ 大学との連携、自習室活用による進学実績向上	(2) ア 「総合的な探究の時間」等を通じた1年次からの進路意識の定着とICT機器の活用、少人数授業や進学講習、大学との連携による進学に向けた講習の充実を図ることで、学習意欲を向上させるとともに、進路実現に向けた確かな手ごたえを感じさせることによって自信をもたせる イ 多様な進路に対応するため、情報収集、伝達を充実し、幅広い個別の指導を展開する ウ 日々の補習と集中講習「夢へのトライアル」、自習室の活用を促進し、高い目標を設定した粘り強い進路指導をする	(2) ア 生徒向け学校教育自己診断における「少人数の授業や、関心のある選択授業がある」[82.6%]を83%以上にする イ 生徒向け学校教育自己診断における「進路や職業について適切な指導を受けられる」[89.7%]において90%以上にする ウ 早期からの講習や自習室の活用、オンライン課題提供を促進することで、国公立・難関私立大学の合格者数[28人]を30人以上、それに準じる有名私立大学合格者数[94人]を100人以上にする	(2) ア 「少人数の授業や、関心のある選択授業がある」86.0%(◎) *現2年生より新しいカリキュラムとなっており、多様な進路に対応している イ 「進路や職業について適切な指導を受けられる」92.0%(◎) *3年間を通じ、充実した進路指導に努めている ウ 国公立・難関私立大学の合格者数22人、それに準じる有名私立大学合格者数84人(△)

府立藤井寺高等学校

<p>2 学校行事や部活動を通して生徒の主体性、創造性を育成するとともに公共心を養う</p>	<p>(1) 「学校行事」、「生徒会活動」、「部活動」を通して、生徒が主体的に取り組む態度、自ら企画・運営する力を育成</p> <p>ア 体育的行事における生徒会を中心とした生徒の企画・運営能力の育成と生徒リーダーの養成</p> <p>イ 文化的行事における生徒の「企画力」、「協働的態度」、「責任感」の育成</p> <p>ウ 「部活動」の活性化と、公共心の育成</p> <p>エ 「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」「学校休業日」の完全実施を図るための部活動の効率化</p>	<p>(1)</p> <p>ア 体育的行事において、生徒会部と3年学年団の連携によって生徒のリーダー集団を育成するとともに、そのリーダー集団が企画から1、2年を巻き込んで組織運営できるよう指導する</p> <p>イ 文化的行事において、生徒会を中心にクラス単位での企画・運営に取り組ませることによってクラスの協力体制や責任感の大切さを理解させる</p> <p>ウ 新入生に向けて入部の促進を図り、加入率の向上を図るとともに、各活動を通して、ルールやマナーを順守する態度を育成していく。</p> <p>エ 「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」の完全実施に向けた部活動の効率化と「学校休業日」の周知徹底を図る</p>	<p>(1)</p> <p>アとイ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒向け学校教育自己診断における「フェス体・フェス文等の行事は楽しい」[91.2%]を92%以上にする</li> <li>・生徒向け学校教育自己診断における「生徒会活動は活発である」[83.9%]を84.5%以上にする</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生の部活動加入率[75.8%]を76.5%以上にする</li> <li>・生徒向け学校教育自己診断における「学校は部活動が盛んである」[87.4%]を88%以上にする</li> </ul> <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・100%のクラブが年間活動計画を作成するとともに、「ノークラブデー」をHPに掲載するとともに完全実施する</li> <li>・「全校一斉退庁日」における教職員の順守率[91.0%]を91.5%以上にする</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>アとイ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「フェス体・フェス文等の行事は楽しい」95.5%(◎)</li> <li>*今年度より制約のない学校行事が実現できている</li> <li>・「生徒会活動は活発である」83.9%(△)</li> <li>*生徒中心の生徒会活動を実施しているが、活動のアピールも含めて、さらなる活性化に努めていく</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生の部活動加入率75.0%(△)</li> <li>*生徒会、新1年学年団を中心に入部促進の施策を検討する</li> <li>・「学校は部活動が盛んである」88.6%(○)</li> </ul> <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間活動計画作成100%、ノークラブデーの掲載および完全実施(○)</li> <li>・「全校一斉退庁日」における教職員の順守率65.1%(△)</li> <li>*今年度より「全校定時一斉退庁日」となり、定時の測定となったため</li> </ul>
<p>3 「地域連携」を核にして「地域とともにある学校」を進めるとともに、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携を推進</p>	<p>(1) 支援学校との連携を通じたインクルーシブ教育システムの理解と実践</p> <p>ア 藤井寺支援学校との交流活動の拡充、インクルーシブ教育システムの構築の理解と実践</p> <p>(2) 「地域連携」を核にした生徒の主体的交流活動の充実による「地域とともにある進学したい学校No.1」の確立</p> <p>ア 地域活動の拡充、地域と密着した「地域とともにある学校」の継続</p> <p>イ 海外研修の継続・充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア 藤井寺支援学校との年間を通じた交流活動を充実させるとともに、オンラインを含めたインクルーシブ教育システムの構築について理解を深め、実践に生かすことによって年間を通じた「人権教育」につなげる</p> <p>(2)</p> <p>ア 地域活動（新春セミナー・藤彩展・市民講座・校外清掃・地域の催しへの参加、地元小・中学校や幼・保育園との連携活動）の拡充を図り、藤井寺市立北小学校への「放課後学習支援」と「授業研究」の連携を通じて、児童・生徒、教員間の交流を促進する</p> <p>イ ニュージーランドへの海外研修の継続とオンラインによる交流システムの内容を充実させることによって、現地交流高校</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さやルール、人権について学ぶ機会がある」[89.4%]を90%以上にする</li> <li>・保護者向け学校教育自己診断における「学校は子どもに生命を大切にすることを養おうとしている」[90.6%]を91%以上にする</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒向け学校教育自己診断における「PTAや地域、近隣の学校(支援学校や北小)との交流は活発である」[81.7%]を82%以上にする</li> <li>・保護者向け学校教育自己診断における「地域や近隣の学校(支援学校や北小)との交流をしている」[87.2%]を88%以上にする</li> </ul> <p>イ 海外研修参加者によるアンケートにおいて肯定的評価[95.1%]を96%以上にする</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「命の大切さやルール、人権について学ぶ機会がある」93.5%(◎)</li> <li>・「学校は子どもに生命を大切にすることを養おうとしている」90.0%(△)</li> <li>*校内で行われている人権推進の教育活動について、一層の情報提供に努める</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「PTAや地域、近隣の学校(支援学校や北小)との交流は活発である」91.0%(◎)</li> <li>・「地域や近隣の学校(支援学校や北小)との交流をしている」93.2%(◎)</li> </ul> <p>イ 海外研修参加者によるアンケートにおいて肯定的評価96.0%(○)</p>

## 府立藤井寺高等学校

	<p>(3) 「藤高(ふじたか)」の良さを 知り、実感できる広報活動 の充実</p> <p>ア 学校ホームページ、藤高 メルマガのさらなる充実</p> <p>イ 生徒が主体の「体験入 学」、「学校説明会」のさらな る充実</p>	<p>から日本への短期留学や本校での学校交 流、ホームステイ受け入れなどのサポ ートに取り組む</p> <p>(3)</p> <p>ア ホームページの充実を図り、「求められる 情報」を発信するための更新を継続する</p> <p>イ 「体験入学」、「学校説明会」において、 在校生が主体的に活躍することによって 「藤高(ふじたか)」の良さをわかりやす く伝える</p>	<p>(3)</p> <p>ア イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者向け学校教育自己診断 における「学校は教育情報につ いて提供の努力をしている」 [89.7%]を、90%以上に する</li> <li>・保護者向け学校教育自己診断 における「学校のホームペ ージやメールサービスを利用した ことがある」[84.8%]を85%以上 にする</li> <li>・教員向け学校教育自己診断に おける「教育活動について必要 な情報について、生徒・保護者 や地域への周知に努めている」 [87.9%]を88.5%以上に する</li> </ul>	<p>*来年度もオーストラリア への語学研修を実施予定</p> <p>(3)</p> <p>ア イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校は教育情報について 提供の努力をしている」 87.1%(△)</li> <li>*校内の教育活動だけでな く、広く教育に関わる情報に ついて提供していく</li> <li>・「学校のホームページやメ ールサービスを利用したこ とがある」85.8%(○)</li> <li>・「教育活動について必要な 情報について、生徒・保護者 や地域への周知に努めてい る」89.3%(○)</li> </ul>
<p>4 生徒が安全・安心な環境の中 で、生徒、教職員の健康管理を 推進する体制を充実させる</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の向上と保 護者、関係機関との連携に よる教育相談体制の充実</p> <p>ア 生徒一人ひとりに対する 支援の充実</p> <p>イ 自転車マナーの向上と交 通安全指導の徹底</p> <p>(2) 「入学してよかったと言え る学校」の継続</p> <p>ア 「藤高」の将来に向けた特 色ある取組みの検討</p> <p>イ 個人情報保護するための 取り組みを検討</p> <p>(3) 大規模災害の発生に対応で きる防災体制の強化および 防災教育の充実</p> <p>ア 大規模災害の発生に対応 できる防災体制の強化</p> <p>(4) 生徒・教職員の健康管理体 制の充実</p>	<p>(1) 本校の教育目標である「互いに違いを認 め合い、ともに学びともに生きる」こと を育むために、「教育相談」体制の充実を 図るとともに、各学年と部活動の連携、 保護者との連携を深め、生徒支援体制を 強化する</p> <p>イ 生徒の98%が自転車通学をしているた め、地域や警察と連携した交通安全指導 を図るとともに、雨天時の傘さし運転に 対する注意喚起を徹底する</p> <p>(2) 「入学してよかったと言える学校」であ り続けるために、「運営委員会」「総合探 究推進委員会」「オンライン学習委 員会」を中心に学習、学校行事、部活動な ど学校生活全般についての検討を継続す る</p> <p>イ デジタル機器の導入や情報のデジタル化 にともなう個人情報漏洩の危険性に対 して、情報保護のための具体的な対策を立 案するとともにその実施を徹底する</p> <p>(3) 大規模災害に備え、藤井寺市危機管理室 と連携するとともに、必要物資のさらな る調達を進めていく</p> <p>(4) 学校保健委員会、安全衛生委員会の活 性化によって生徒の健康を守るとともに、 教職員の働き方改革を進める</p>	<p>(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断に おける「担任の先生以外にも相 談することができる先生がい る」[69.0%]を69.5%以上に する</p> <p>イ ・保護者向け学校教育自己診断 における「子どもが悩みを相談 できる体制ができている」 [79.7%]を80%以上に する</p> <p>イ 生徒向け学校教育自己診断にお ける「学校生活についての先生 の指導は納得できる」[78.7%] を79%以上に する</p> <p>(2) ア ・生徒向け学校教育自己診断に おける「学校に行くのは楽しい」 [78.8%]を79.5%以上に する</p> <p>イ ・生徒向け学校教育自己診断に おける「学校は特色ある取組み を行っている」[81.0%]を81.5% 以上に する</p> <p>イ ・生徒向け学校教育自己診断に おける「学校において個人情報 は守られている」[89.7%]を90% 以上に する</p> <p>(3) ア 本校、藤井寺市、地域3者合同 会議を年1回開催する</p> <p>(4) ・一人当たりの平均時間外在 校時間を3%減少させる</p>	<p>(1) ア ・「担任の先生以外にも相談 することができる先生がい る」75.5%(◎)</p> <p>イ ・「子どもが悩みを相談でき る体制ができている」 77.7%(△)</p> <p>*本校の相談体制について 充実させるとともに、情報提 供にも努める</p> <p>イ 「学校生活についての先生の 指導は納得できる」 89.3%(◎)</p> <p>(2) ア ・「学校に行くのは楽しい」 84.6%(◎)</p> <p>イ ・「学校は特色ある取組みを 行っている」87.3%(◎)</p> <p>*生徒は本校の教育活動に ついて高い満足度を示して おり、来年度以降も引き続き 特色ある取組みを進めて いく</p> <p>イ ・「学校において個人情報は 守られている」92.1%(◎)</p> <p>*個人情報の管理・保護につ いては常に注意喚起してい く</p> <p>(3) ア 本校、藤井寺市、地域3者合 同会議を1回開催(○)</p> <p>*地域、行政との連携を取り ながら危機管理に努めてい く</p> <p>(4) ・一人当たりの平均時間外 在校時間3.4%減少(○)</p>